

各 位

株式会社三十三総研

『生成 AI の使用状況に関する調査』の実施について

1. 調査の趣旨

近年、生成 AI(テキスト、画像、音声などを自律的に生成できる AI 技術)の能力向上が著しく、その利活用の拡大が進んでいる。㈱三十三総研では 2025 年2月に生成 AI の使用状況に関して、個人向けのアンケート結果を公表した。今回は、その継続調査として、個人 495 名(三重県在住、男・女、20 代～60 代の各世代、人数の内訳については下表参照)を対象に、生成 AI の使用状況や使用目的、生成 AI の急速な能力向上に対する心境について調査した。

2. 調査方法

- ・調査対象者 三重県在住、男・女、20 代～60 代
(内訳は右表)
- ・調査方法 インターネットによる調査
- ・調査時期 2026 年5月 12 日～5月 29 日
- ・回答状況 有効回答 495 名
- ・設問 全4問

[回答者の内訳]

年齢	男性	女性	計
20代	45	50	95
30代	50	50	100
40代	50	50	100
50代	50	50	100
60代	50	50	100
合計	245	250	495

3. 設問内容

- Q1 生成 AI の使用状況
- Q2 生成 AI の使用目的
- Q3 生成 AI を使用しない理由
- Q4 生成 AI の急速な普及や能力向上に対する心境

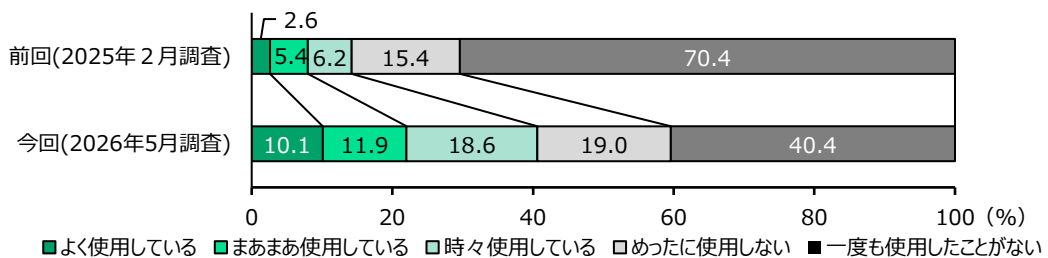
4. 調査結果のまとめ ※まとめでは主要な選択肢を抜粋

生成 AI の使用状況

(Q1・生成 AI の使用状況について「n=495」)

「一度も使用したことがない」と回答した割合は 40%で、前回と比較して 30%ポイント減少

「よく使用している(毎日)」が 10.1%、「まあまあ使用している(週3回程度)」が 11.9%、「時々使用している(週1回程度)」が 18.6%、「めったに使用しない(一度使用した程度でほぼ使用していない)」が 19.0%、「一度も使用したことがない」が 40.4%の結果となった。前回調査と比較して、「一度も使用したことがない」が最大の変化で 30%ポイント減少した一方、その他の全ての選択肢で回答者が増加した。生成 AI の認知から活用への移行が進んだことを受け、一度も使用していなかった層が、一度以上使用したことがある層へ移り変わったことが示唆される。【Q1】。

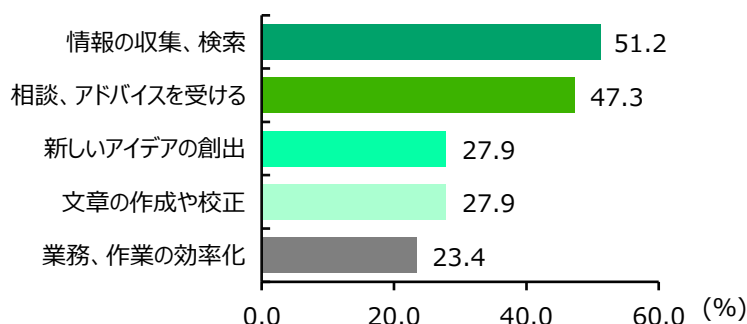


生成 AI の使用目的

(Q2・生成 AI の使用目的について【Q1でよく使用している、まあまあ使用している、時々使用していると回答した方】「n=201」 ※複数回答)

「情報の収集、検索」が5割超で最多【回答の上位5項目】

「情報の収集、検索」が 51.2%、「相談、アドバイスを求める」が 47.3%、「新しいアイデアの創出」、「文章の作成や校正」がともに 27.9%と上位に。【Q2】

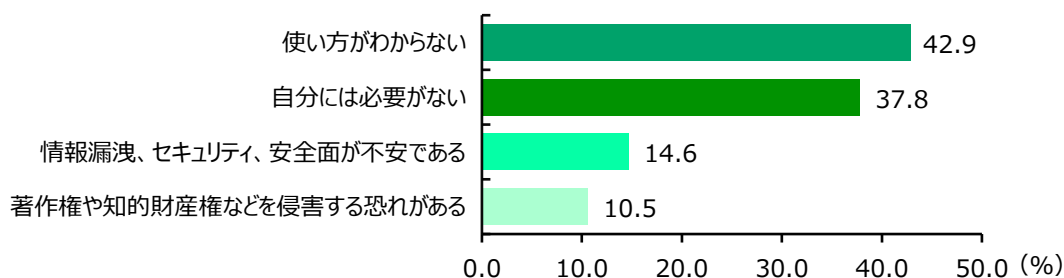


生成 AI を使用しない理由

(Q3・生成 AI を使用しない理由について【Q1でめったに使用しない、一度も使用したことがないと回答した方】「n=294」 ※複数回答)

「使い方がわからない」が4割強で最多に【回答の上位4項目】

「使い方がわからない」が 42.9%、「自分には必要がない」が 37.8%、「情報漏洩、セキュリティ、安全面が不安である」が 14.6%、「著作権や知的財産権などを侵害する恐れがある」10.5%が上位に。【Q3】

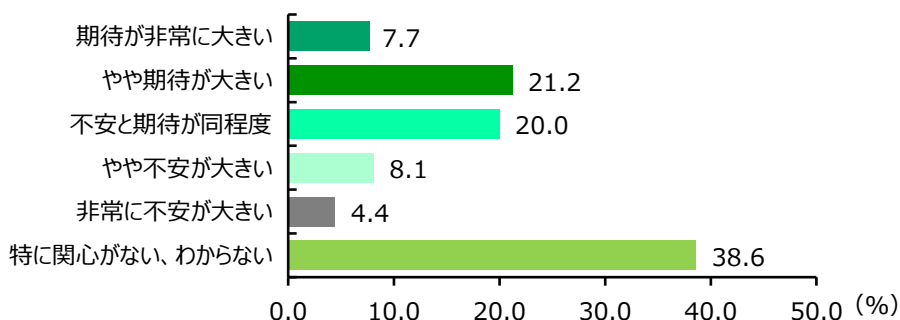


生成 AI の急速な能力向上に対する心境

(Q4・生成 AI の急速な能力向上に対する心境
「n=495」 ※単一回答)

「特に関心がない、わからない」を除けば「やや期待が大きい」が約2割超で最多。次いで「不安と期待が同程度」が約2割

「やや期待が大きい」が 21.2%と、「特に関心がない、わからない」を除けば最多に。次いで「期待と不安が同程度」で、20.0%、「やや不安が大きい」が 8.1%、「期待が非常に大きい」が 7.7%、「非常に不安が大きい」が 4.4%と、期待が不安を上回る結果となった。【Q4】



5. 見解

この一年で、生成 AI は人々の身近な存在に変化 使用の主目的は「情報の収集」

①生成 AI の利用が拡大し、一度も利用したことが無い人は大きく減少

生成 AI の使用状況については、週 1 回以上使用している層が 40.6%、使用していない層が 59.4%の結果となった。前回調査では週 1 回以上使用していない層が 85.8%であったが今回調査では、この一年で大きく減少した。

この一年で生成 AI の認知から活用への移行が進み、人々にとって身近な存在となったことが示唆される結果となった。

②生成 AI の主な使用目的は「情報の収集」が最多

生成 AI を週 1 回以上使用している層に、使用目的を聞いたところ、5割程度が「情報の収集」「相談、アドバイスを受ける」、3割弱が「新しいアイデアの創出」、「文章の作成や校正」、2割強が「業務、作業の効率化」と回答した。

生成 AI を使用する人にとって、検索の代替ツールとしての役割に加えて、思考を整理するためのパートナーとして捉えている可能性が示される結果となった。

③生成 AI を使用しない主な理由は「使い方がわからない」「自分には必要がない」

また、生成 AI を週 1 回以上使用していない層に、使用しない理由について聞いたところ、4割強が「使い方がわからない」、4割弱が「自分には必要がない」と回答した。

生成 AI の使用方法がわからない人が多いことや使用することに対するメリットを多くの人が感じていないことが、生成 AI を使用しない主因であることが判明した。

④生成 AI の急速な能力の向上に対する心境は、期待が不安をやや上回る

生成 AI の急速な能力の向上に対しては、「わからない」が4割弱と最も多い回答となったが、それを除けば2割強が「やや期待が大きい」で最多、2割が「不安と期待が同程度」、1割弱が「やや不安が大きい」、「期待が非常に大きい」の順となった。

生成 AI の利用の拡大が進む過渡期において、漠然とした不安を有しながらも、期待が不安をやや上回る結果となった。

6. 設問別サマリー

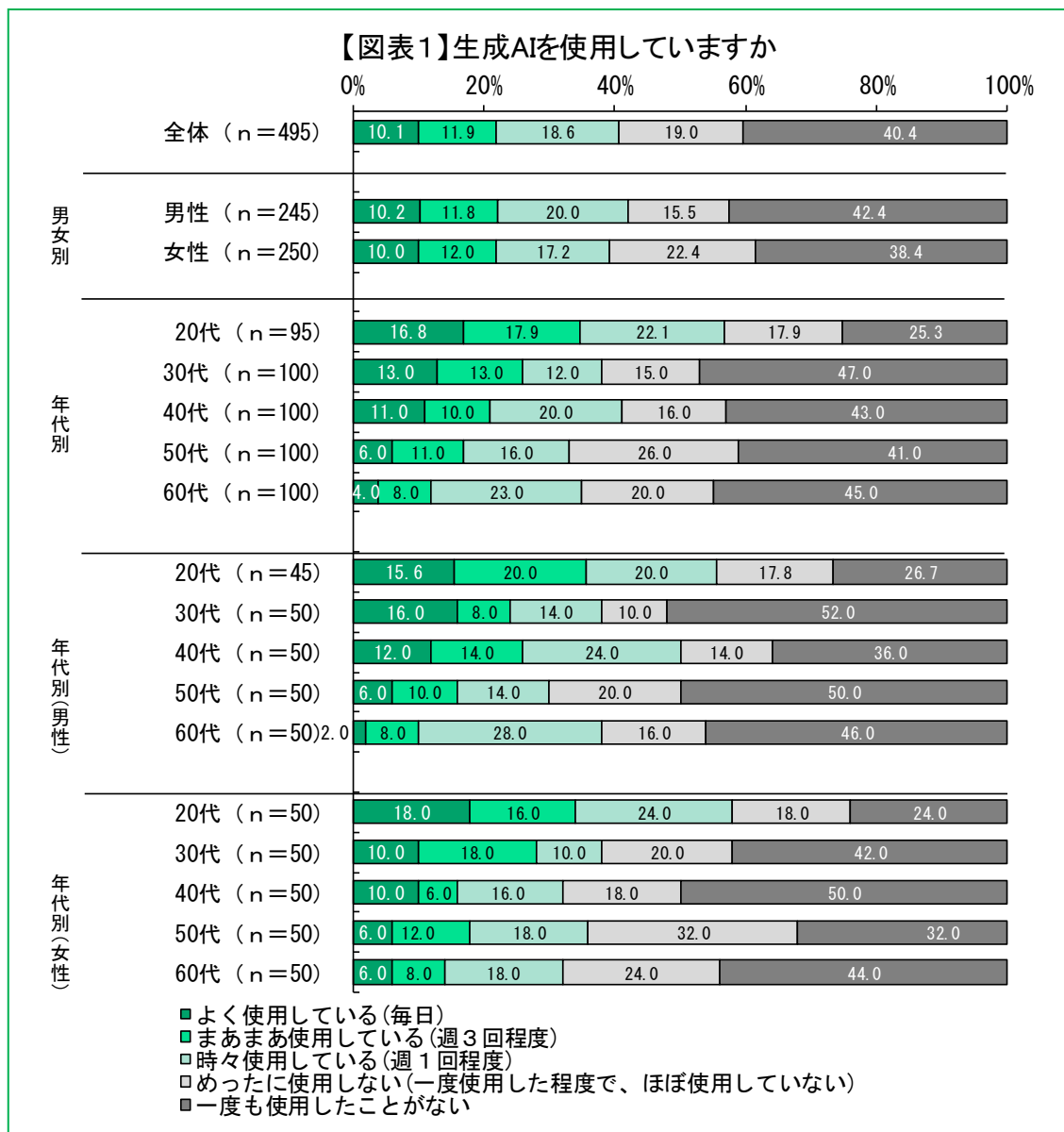
Q1 生成 AI を使用していますか (n=495)

前回と比較して、「一度も使用したことがない」が 30%ポイント減少 20代は5割超が週1回以上使用していると回答

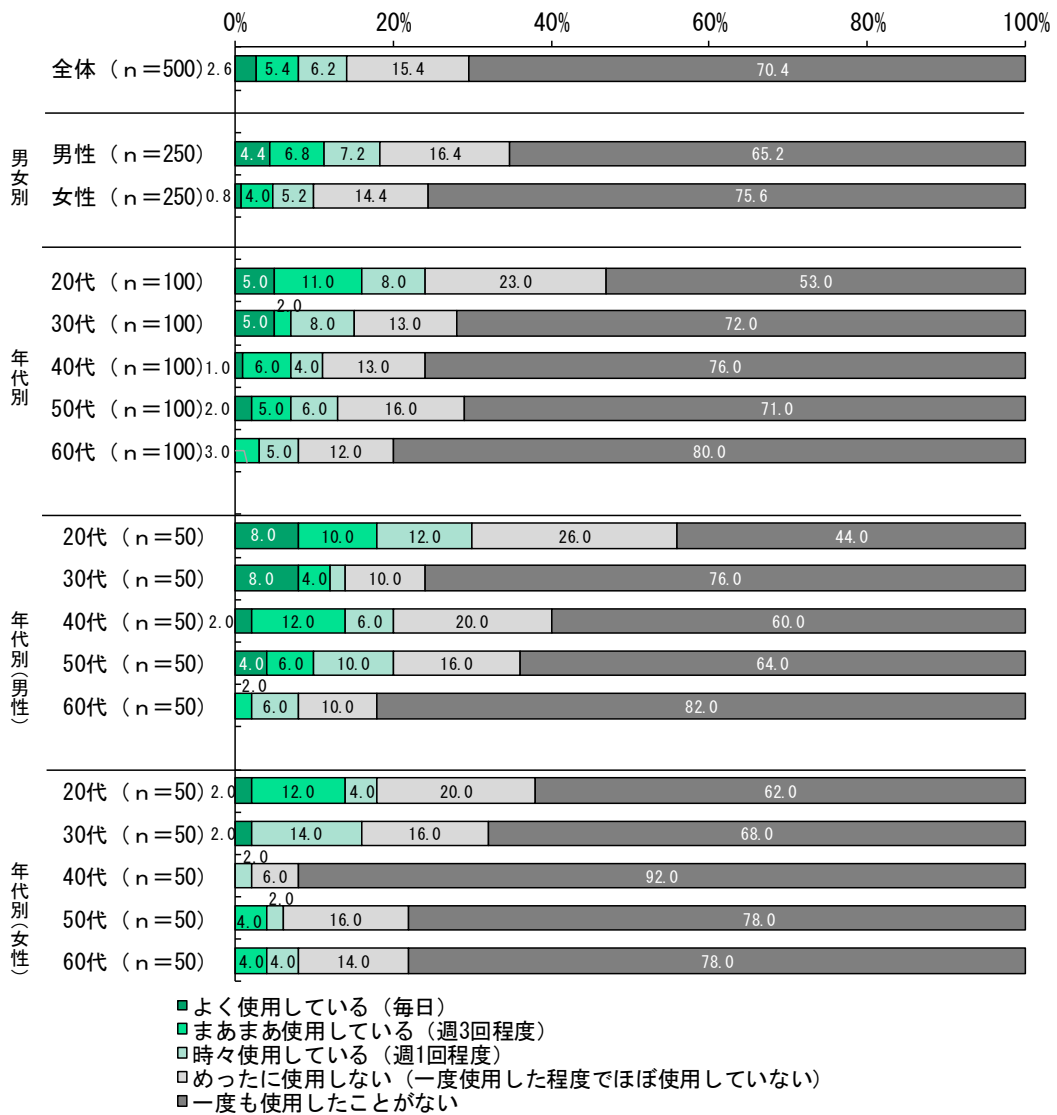
生成 AI の使用状況について、**全体**では使用状況としては「よく使用している」が 10.1% (前回比+7.5%ポイント)、「まあまあ使用している」が 11.9% (同+6.5%ポイント)、「時々使用している」が 18.6% (同+12.4%ポイント)、「めったに使用しない」が 19.0% (同+3.6%ポイント)、「一度も使用したことがない」が 40.4% (同▲30.0%ポイント)と回答し、一度も使用したことが無い人が大幅に減少した。この一年で、生成 AI の普及が進み、身近な存在となったことが示唆される結果となった。

男女別では、男性は 57.9%、女性は 60.8%が、それぞれ生成 AI をほとんど使用していないと回答した。前回調査では男性は 81.6%、女性の 90%が生成 AI をほとんど使用していないと回答しており、男性では約 20%ポイント、女性では約 30%ポイントの減少となった。

年代別では、20代は5割超が週一回以上 AI を使用しており、他の年代に比べて AI の使用率が高い結果となった。



【参考・前回】生成AIを使用していますか



Q2 生成 AI の使用目的は【よく使用している、まあまあ使用している、時々使用していると回答した人】（n=201）※複数回答

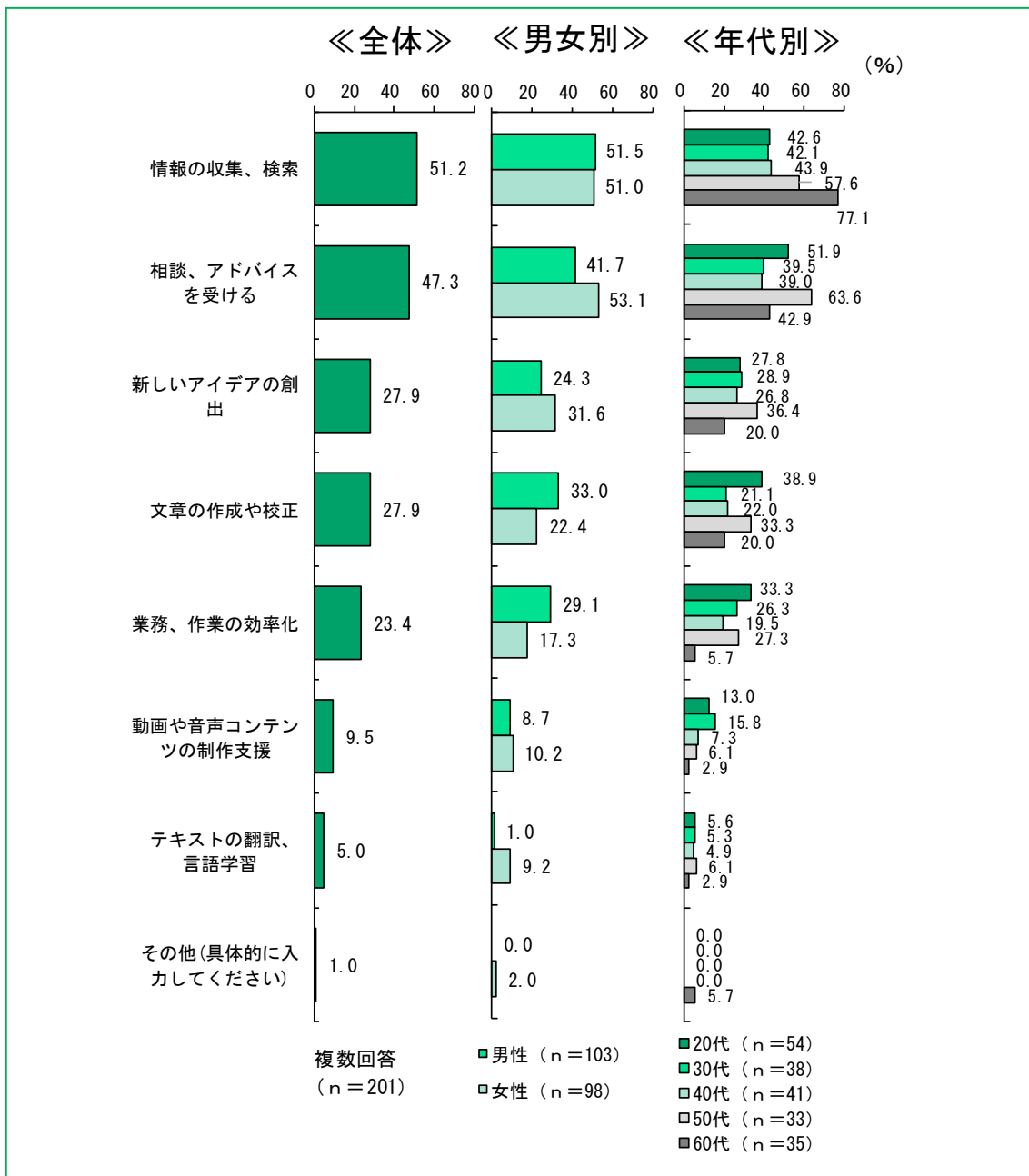
「情報の収集、検索」が5割超で最多

女性は「相談・アドバイスを受ける」が最多、男性は「情報の収集、検索」が最多

生成 AI の使用目的について、**全体**では「事務、作業の効率化」が 51.2%と最も高く、次いで「新しいアイデアの創出」が 47.3%、「相談・アドバイスを受ける」が 27.9%、「文章の作成や校正」が 27.9%、「動画や音声コンテンツの制作支援」が 23.4%という回答となった。

男女別では、男性は「文章の作成や校正」、「業務、作業の効率化」が女性と比較して 10%ポイント以上上回る結果となった。女性は「相談、アドバイスを受ける」が男性と比較して 10%ポイント以上上回る結果となった。相対的に、男性はビジネスシーンで、女性はプライベートシーンで AI を使用している可能性が高いことが示唆される結果となった。

年代別では、20 代は幅広く AI を活用している一方、60 代は情報の収集、検索が中心であった。



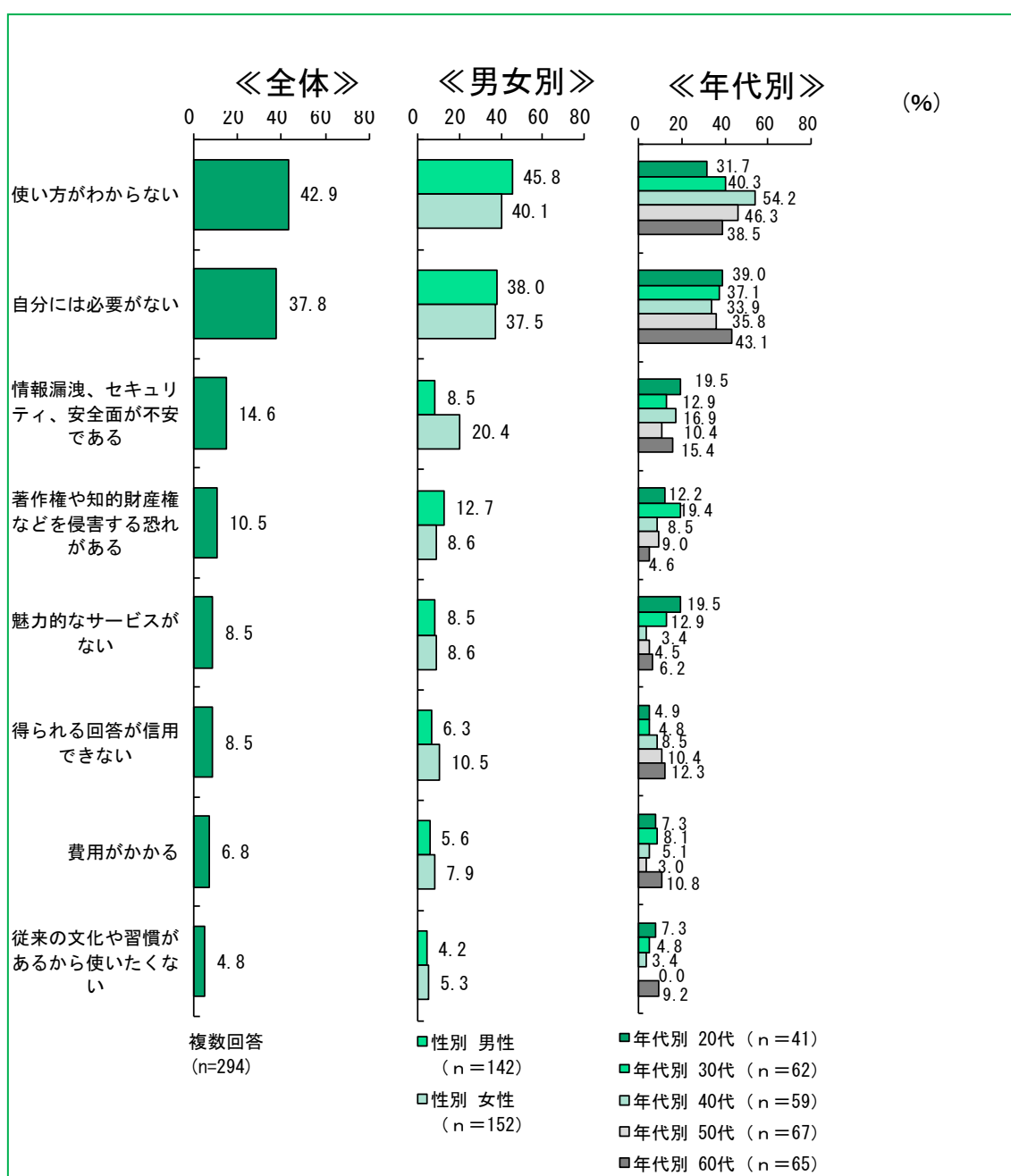
Q3 生成 AI を使用しない理由は【めったに使用しない、一度も使用したことがないと回答した人】（n=294）※複数回答

「使い方がわからない」が 4 割強で最多、次いで「自分には必要がない」が 4 割弱

生成 AI を使用しない理由について、**全体**では「使い方がわからない」が 42.9%、次いで「自分には必要がない」が 37.8%の結果となった。

男女別では、男女とも「使い方がわからない」が4割強で最多、次いで「自分には必要がない」が4割弱の結果に。生成 AI を使用しない理由としては、上記2つの選択肢に回答が集まっており、使い方がわからないことや必要性を感じていないことが生成 AI を使用しない大きな理由として考えられることがわかった。

年代別では、小さい誤差はあるものの、男女別と同様に全世代で上位2つの選択肢に回答が集まる結果となった。



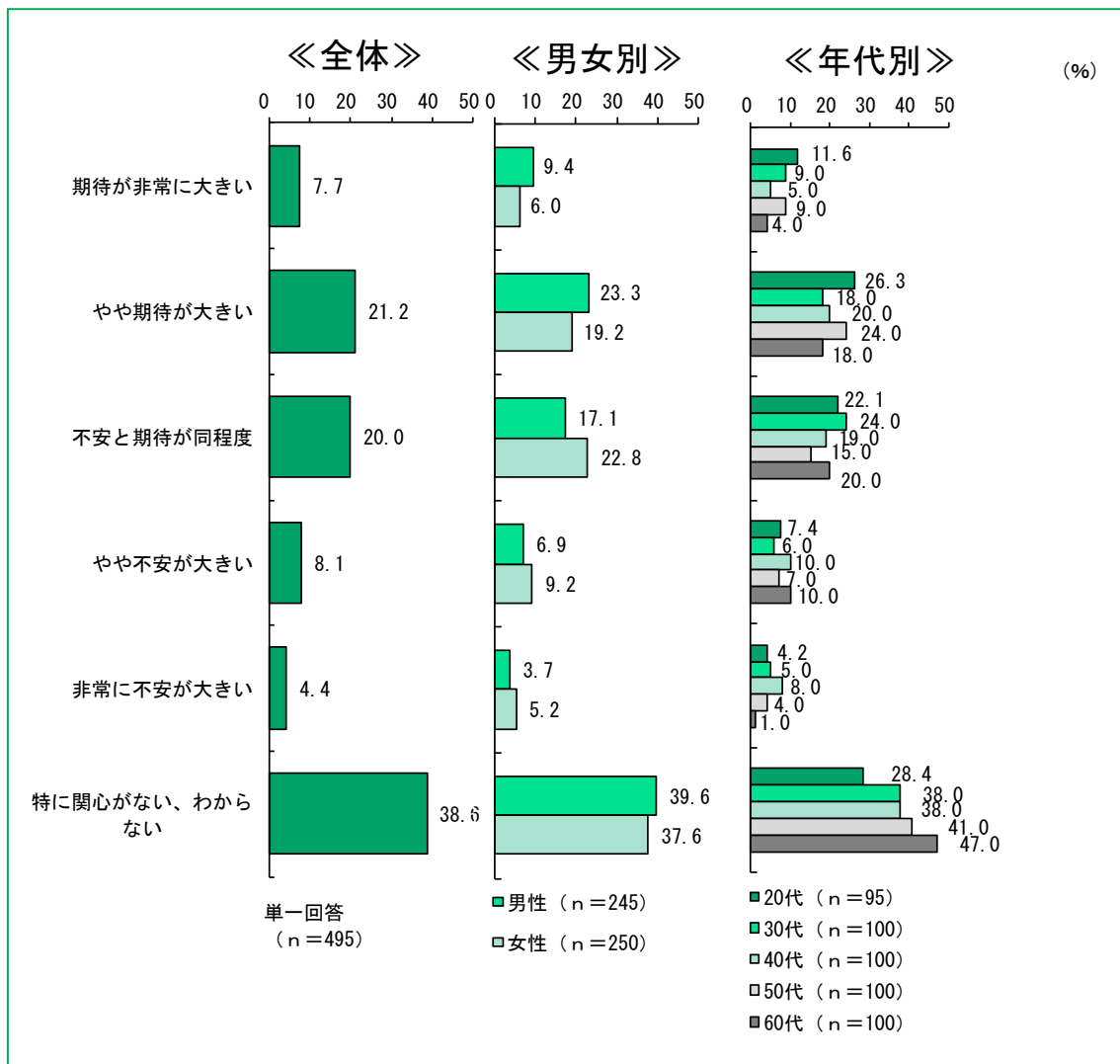
Q4 生成 AI の急速な普及や能力向上に対する心境は(n=495) ※単一回答

生成 AI の急速な普及や能力向上への心境は、「やや期待が大きい」が2割強で最多 期待が不安をやや上回る結果に

生成 AI の急速な普及や能力向上に対する心境について、**全体**では「特に関心がない、分からない」を除くと、「やや期待が大きい(リスクはあるが、AI による効率化や生活の質の向上が見込めると感じる)」が 21.2%と最も高い回答となった。次いで「不安と期待が同程度(利便性による恩恵と、変化に伴うリスクの両面を等しく感じている)」が 20.0%、「やや不安が大きい(AI の利便性よりも、将来的なリスクや負の影響の方が気になる)」が 8.1%という結果となった。不安よりも期待の方が大きいと回答した人の割合が高く、AI の進歩を比較的好意的にとらえていることが明らかとなった。

男女別では、「特に関心がない、分からない」を除くと、男性は「やや期待が大きい」が23.3%と最も多く、次いで「不安と期待が同程度」が 17.1%、「期待が非常に大きい」が 9.4%の結果となった。女性は、「不安と期待が同程度」が 22.8%と最も多く、次いで「やや期待が大きい」が 19.2%、「やや不安が大きい」が9.2%の結果となった。やや女性のほうが、不安を感じている傾向が強い結果となった。

年齢別では、「特に関心がない、分からない」を除くと、20代は「期待が非常に大きい」「やや期待が大きい」と回答した割合が高く、ほかの世代と比較して AI への期待度が高い傾向が明らかとなった。



【参考】Q1～Q4 に対する職種別回答割合

生成 AI への心境は、「やや期待が大きい」が 2 割強で最多 やや期待が不安を上回る結果に

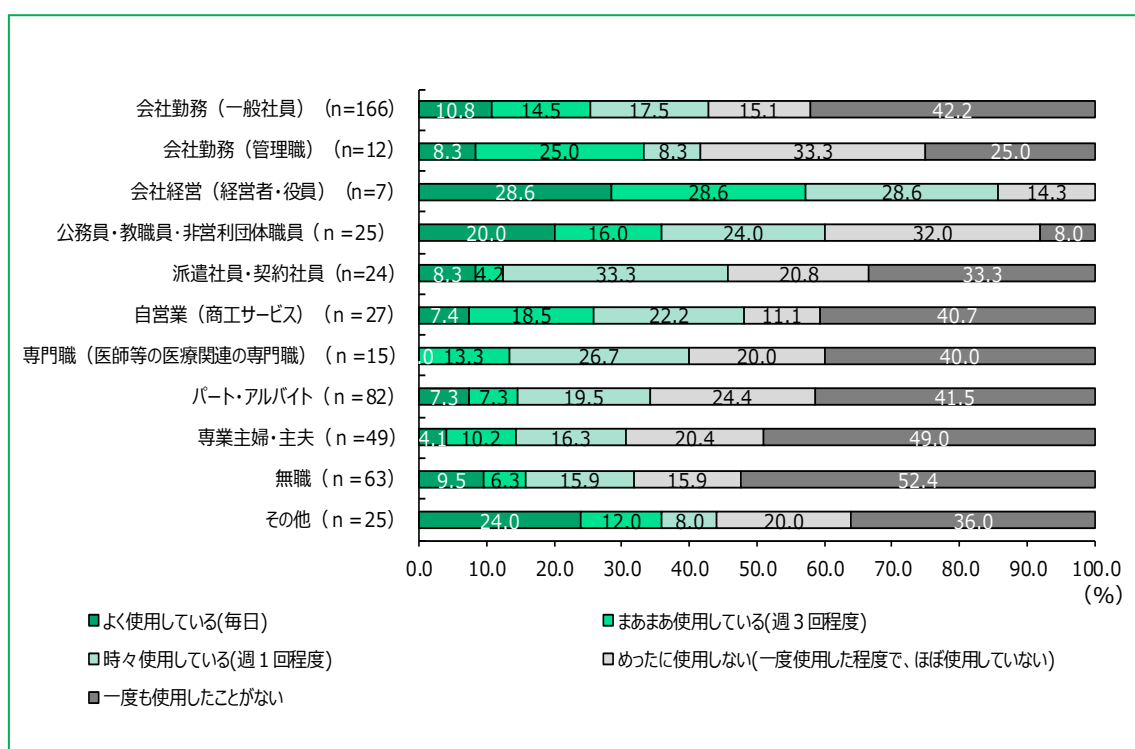
生成AIの使用状況について**職種別**にみると、会社員（一般社員）で毎日使用している割合は 1 割程度である一方、会社経営（経営者・役員）は3割程度である等、職種によって、ややばらつきが見られる結果となった。【Q1】

生成AIの使用目的について**職種別**にみると、「情報の収集、検索」については、ほとんどの職種で 20%を超えており、幅広い業種で活用されていることが判明した。その他の目的については、「相談・アドバイスを求める」「新しいアイデアの創出」、では会社経営（経営者・役員）が、「文章の作成や校正」では公務員・教職員・非営利職員が目立つ結果となった。【Q2】

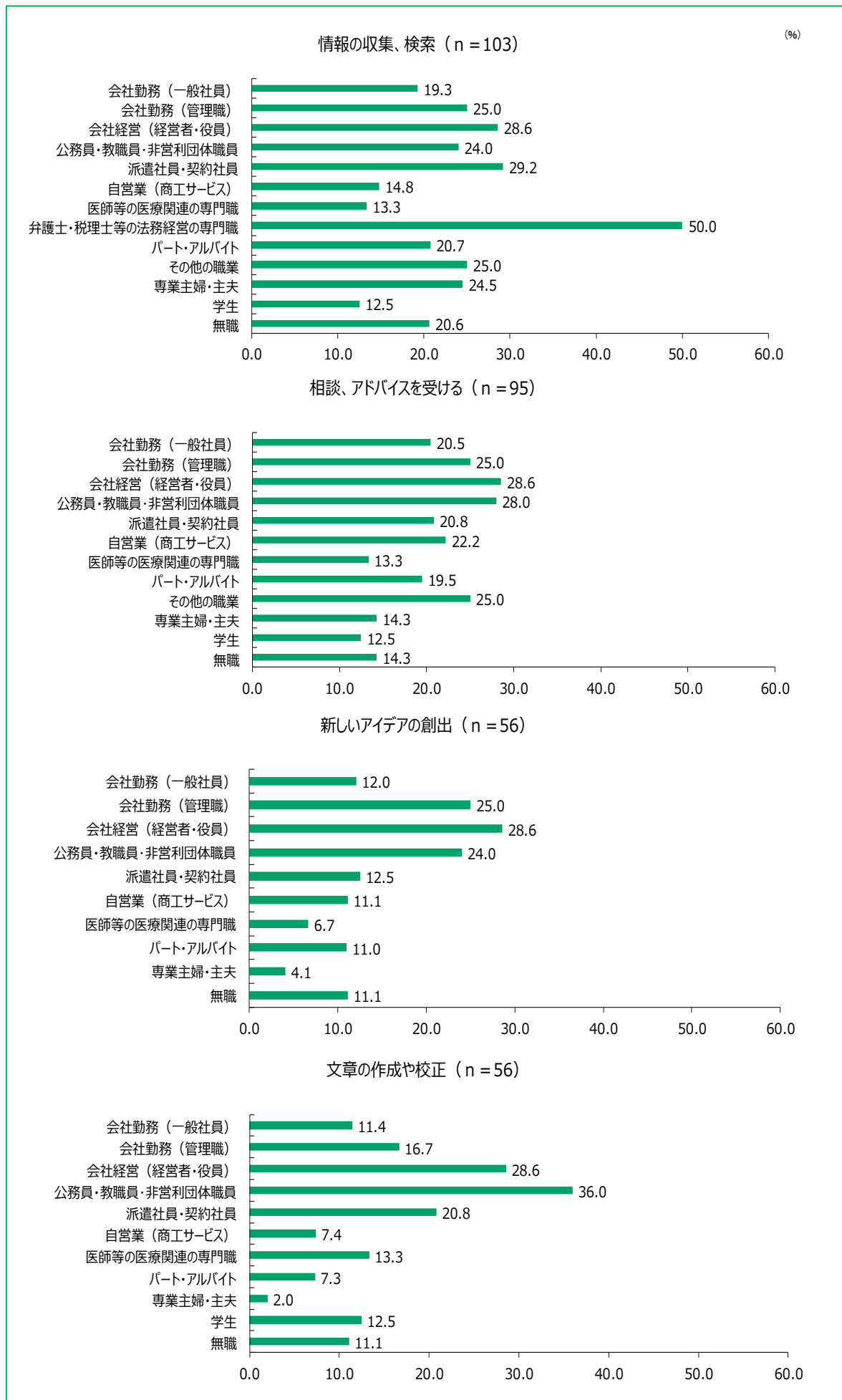
生成AIを使用しない理由について、**職種別**にみると、「使い方がわからない」については、ほとんどの職種で 20%を超えており、幅広い職種で課題となっていることが判明した。その他の理由については、「自分には必要ない」は医師等の医療関連の専門職が、「情報漏洩、セキュリティ、安全面が不安である」は派遣社員・契約社員が、「著作権や知的財産権などを侵害する恐れがある」は公務員・教職員・非営利団体職員が目立つ結果となった。【Q3】

生成AIの急速な普及や能力向上に対する心境について**職種別**で見ると、「期待が非常に大きい」「やや期待が大きい」を合計した期待が不安を上回る層については、会社経営（経営者・役員）が最多であった一方、専業主婦・主夫は 18.3%と最小である等、職種によってばらつきのある結果となった。【Q4】

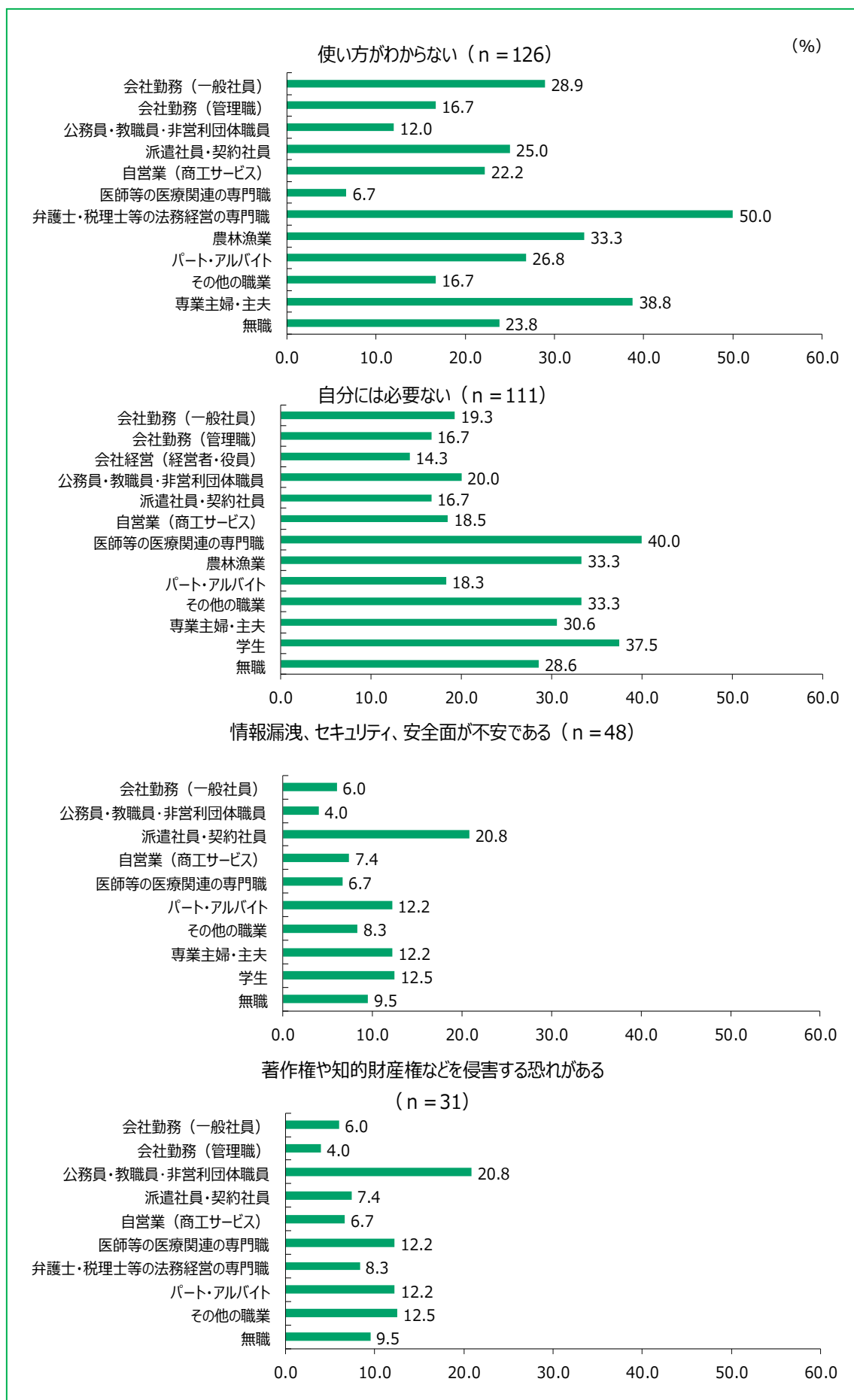
【Q1】生成 AI の使用状況



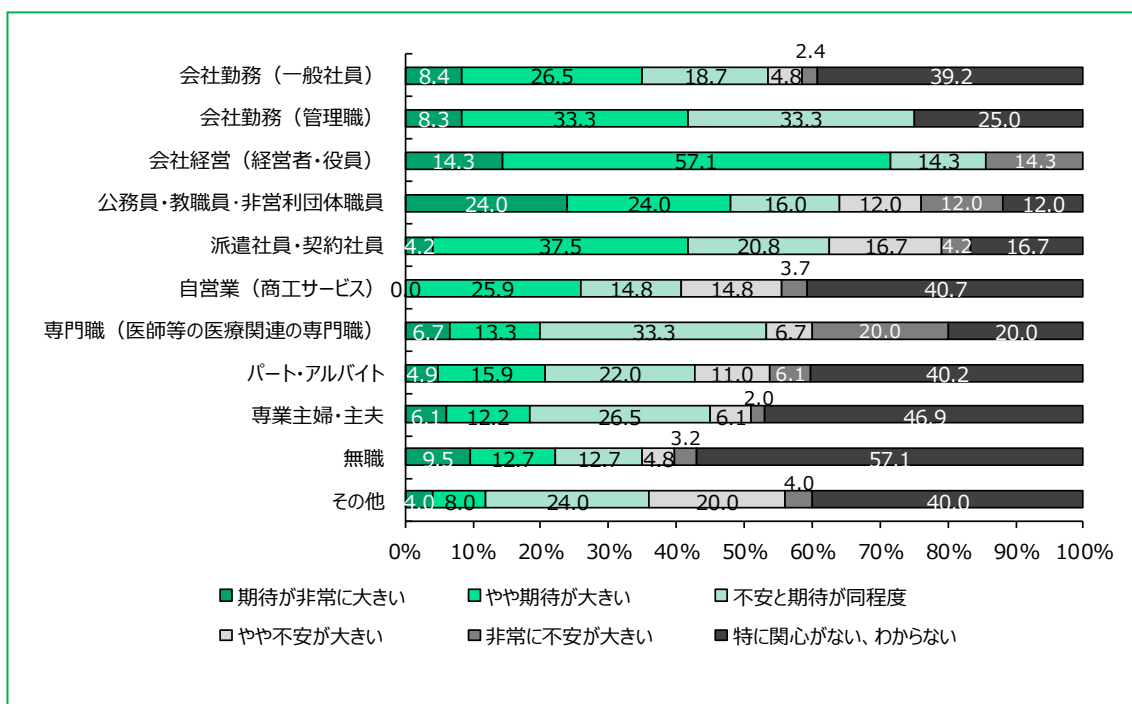
【Q2】生成 AI の使用目的



【Q3】生成 AI を使用しない理由



【Q4】生成 AI の急速な普及や能力向上に対する心境



【本件に関するお問合せ】

株式会社三十三総研 調査部 中野 萌希
 三重県四日市市西新地 10 番 16 号 第二富士ビル 4 階
 TEL (059) 354-7102 E-mail : 33ir@33bank.co.jp